

大学入学共通テストの探求 ⑧

2021年度第2日程地理B第3・4問の分析を通して

担当 山口裕平

一 第3問

「人口、都市・村落」から6問が出題された。問1は高齢化進行スピード、問2は女性の労働力率、問3は町村の分布と特徴、問4は都市人口率と社会・経済との関係性、問5は都市構造と交通の特徴の関係性、問6は都市における施設の立地について問われた。他の大問に比べて従来のセンター試験に近い出題方式の設問が多く見られた。一方で、特徴や社会・経済の背景を考える設問も見られた。配点20点。

ピックアップ題 問5 17

本問は、まず主な鉄道網の図を読み取り、C B Dや郊外の位置など、都市の空間的特徴の理解を問うている。その上で鉄道は都市を中心として周辺都市となぎ、自動車は郊外の様々な都市同士をつなぐという概念を示したものを選ぶ問題であり、

深い思考を必要とする。

二 第4問

「現代世界の地誌的考察」で西アジアに関する問題が6問出題された。2パートに分かれており、Aパートでは西アジアの気候、水資源の確保の方法、原油の生産量と経済発展、ドバイの人口増加の背景について問われた。Bパートでは、トルコとモロッコの比較地誌で、両国の食文化、人口の国際移動について問われた。受験生にとつてなじみの薄い地域ではあるが、固有の知識を問うのではなく、地理的な知識や概念を活用して解く問題が見られた。配点20点。

ピックアップ題 問4 22

本問は、人口推移の図と人口ピラミッドから人口増加の背景を考察させる問題である。資料をもとに社会的事象の背景を考

察することは、地理総合の授業に生かしたい。しかし、本問は知識のみで解答できるため、思考力を問えたか疑問が残る。

三 紙上ディスカッション

以下、自由参加形式で意見交換したものを要約して報告する。蒼下(下関南高校) 第3問では、問1〜4では従来のセンター試験と同じような問題だが、問5・6はGISで作成された地図から情報を読み取り、考察する力を求めている。調査や技能に関する問題が各大問に見られる。第4問は従来の出題スタイルと大きな違いはない。

宅島(広島大・院) 第3問では、過去のセンター試験と類似した設問がみられた。例えば、問1(2014年・B・本・3問4、2007年・B・追・3問4)や問6(2000年・B・本・4問3)などである。今後は、共通テストにみられる新傾向の問題への過去問のリメイクも考えられる。

中村(鳥取西高校) 第4問問6は人口の国際移動をテーマに、経済的理由や紛争など多面的な

角度から考察する設問。トルコ、モロッコ両国の移出入の両方を考えさせる点、指数を用いた図8を読み取る力を試している点が面白い。

井上(川崎高校) 第3問は高齢化率、女性労働力比率の世界の動向を把握できているか問う問題。先進国であっても、様々な背景から人口動態は異なってくるが、背景の違いを理解しているかが問われている。授業でも様々な事例を取り上げて多面的に捉えさせることが必要である。

首藤(広島井口高校) 第4問問3は西アジアの国々を各種指標から4つにグループ分けする問題である。西アジア主要国の産業構造や経済水準などの基本的な理解を問うており、各国の特徴をこの程度は押さえてほしいというメッセージが見られる。

後藤(佐倉高校) 第3問の間6は平易だが、都市の視点として生徒に身につけさせたい。第4問問6は、移民をテーマとした旬な問題であり、高校地理学習の意義を世間へ知らしめるものであった。

(長崎県立上五島高等学校)